

第50回水工学に関する夏期研修会(8月25日・26日 九州工業大学)開催報告

西部地区 委員 鬼東(九工大)、委員兼幹事 杉原(九大)

1. 開催日 2014年8月25日(月)～8月26日(火)の2日間 (A・Bコース並行開催)
2. 場 所 九州工業大学 戸畑キャンパス 総合教育棟 C-1A講義室, C-2A講義室
(北九州市戸畑区仙水町1番1号)
3. 会 場: Aコース(河川・水文)会場: 総合教育棟1F C-1A講義室(収容人数:208名)
Bコース(海岸・港湾)会場: 総合教育棟2F C-2A講義室(収容人数:210名)
4. 総合テーマ:
Aコース(河川・水文コース): 「近年の大規模水・土砂災害と予測・対策技術の高度化」
Bコース(海岸・港湾コース): 「海岸・港湾に関する調査・観測の技術」
5. 受講料: 1コースにつき1名 一般(社会人) 16,000円 学生・院生 10,000円
6. 参加者数: 合計202名 一般(会員:78名 非会員:89名) 学生(会員:27名 非会員:8名)
Aコース 143名(うち当日5名): 一般(会員57名 非会員64名) 学生(会員19名 非会員3名)
内訳: 民間104名 財団法人・独立行政法人3名 官公庁7名 大学26名 その他(不明含む)3名
Bコース 59名(うち当日5名): 一般(会員21名 非会員25名) 学生(会員8名 非会員5名)
内訳: 民間38名 財団法人・独立行政法人4名 官公庁1名 大学14名 その他(不明含む)2名

7. プログラム

Aコース

Bコース

■ 8月25日(月)

9:15～ 10:45	近年の大規模水・土砂災害の特徴 小松利光（九州大学・特命教授・名誉教授）
11:00～ 12:30	大都市域における浸水危険性の評価手法 とそれに基づく避難誘導 関根正人（早稲田大学・教授）
13:30～ 15:00	九州における大規模災害とその対応 古賀俊行（九州地方整備局・河川部長）
15:15～ 16:45	河川堤防の決壊と対策技術 中川 一（京都大学・教授）

■ 8月25日(月)

9:15～ 10:45	わが国における気象観測とそのデータ利用 蓼沼信三（気象庁・観測技術管理官）
11:00～ 12:30	日本沿岸における波浪の常時観測 ～全国港湾海洋波浪情報網・ナウファスを例に～ 川口浩二（港湾空港技術研究所・チームリーダー）
13:30～ 15:00	田辺中島高潮観測塔における気象海象観測 馬場康之（京都大学・准教授）
15:15～ 16:45	調査観測兼清掃船による有明海・八代海の 環境調査について 奥村靖浩（九州地方整備局・沿岸防災対策官）

■ 8月26日(火)

9:15～ 10:45	フリーソフトiRICを用いた河川の流れ, 河床変動, 河岸浸食予測の実践 清水康行（北海道大学・教授）
11:00～ 12:30	減災型治水に求められる河川技術の 展望と課題 秋山壽一郎（九州工業大学・教授）
13:30～ 15:00	大規模洪水に適応する河道の設計・管理 技術 福岡捷二（中央大学・教授）
15:15～ 16:45	集中豪雨のリアルタイム観測・予測技術 中北英一（京都大学・教授）

■ 8月26日(火)

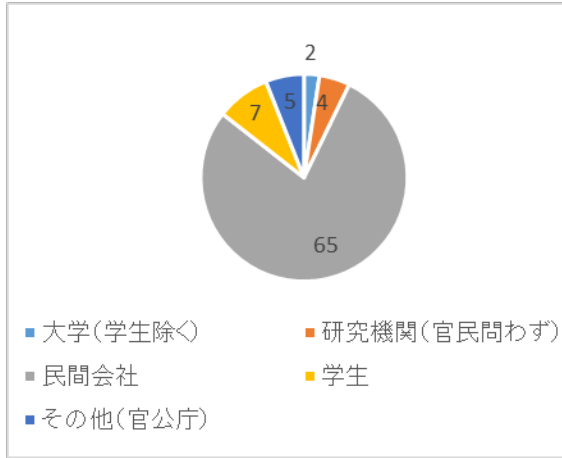
9:15～ 10:45	国内外における沿岸域災害調査 田島芳満（東京大学・教授）
11:00～ 12:30	漂砂・海浜変形の調査と解析について 黒岩正光（鳥取大学・教授）
13:30～ 15:00	現場観測データに基づく甌島浦内湾の 副振動特性について 山城 徹（鹿児島大学・教授）
15:15～ 16:45	古文書・津波堆積物が示す世界最大規模の 津波の実態と対応策 仲座栄三（琉球大学・教授）

8. 研修会の様子

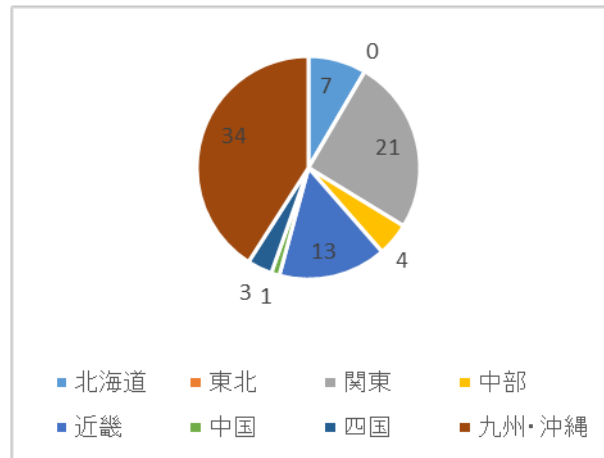


9. アンケートの結果 (Aコース) 回答数83

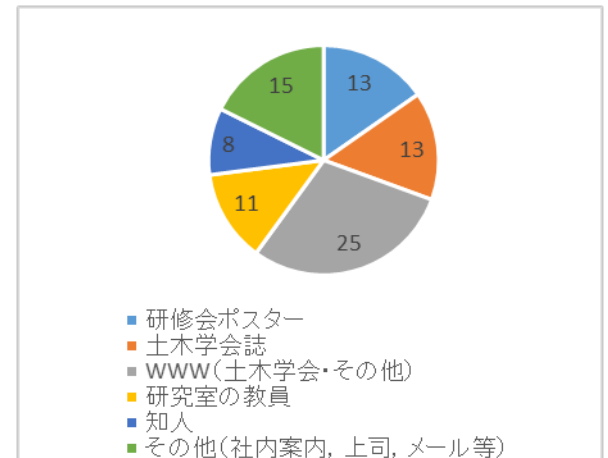
設問1. あなたの職場は？



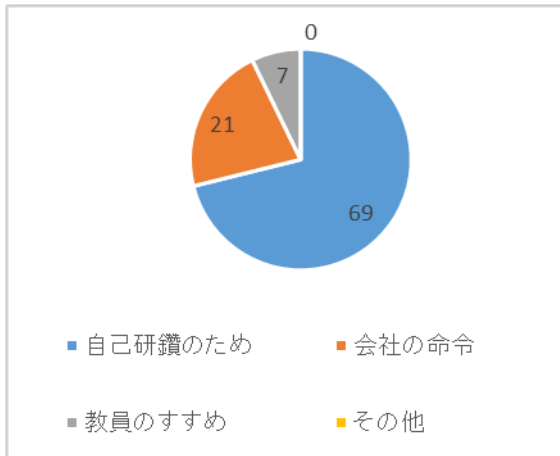
設問2. あなたのお住まいの地方は？



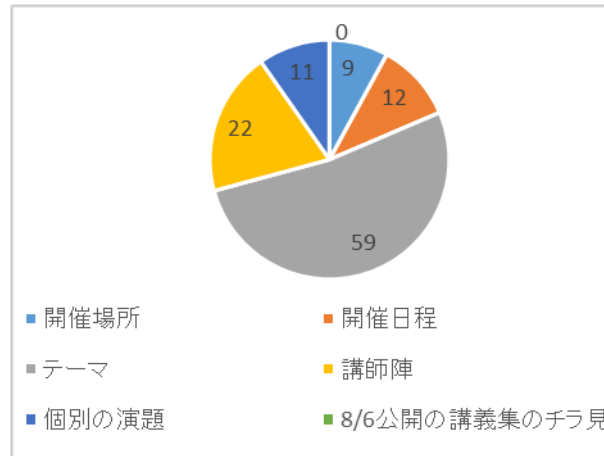
設問3. あなたはどのような方法で本研修会を知りましたか？(複数回答OK)



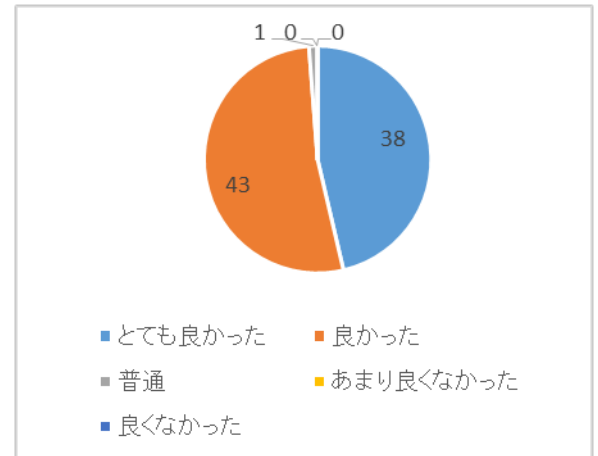
設問4. 研修会に参加された理由は？(複数回答OK)



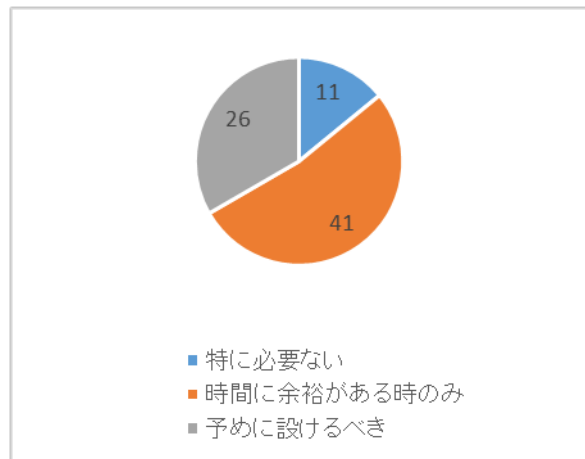
設問5. 研修会に申し込む判断は、以下の内、どれですか？(複数回答もあった)



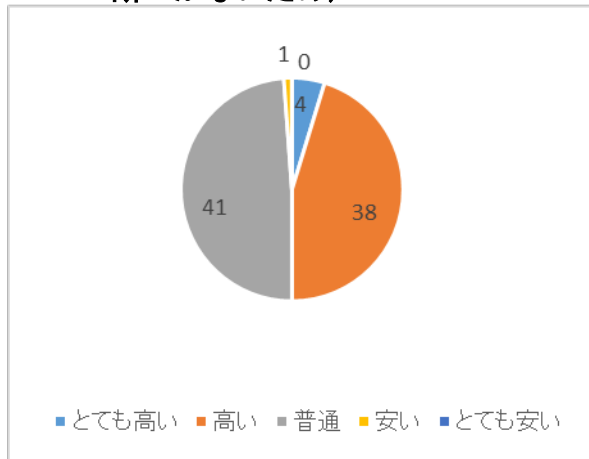
設問6. 研修会に参加して、よかったと思いますか？(1名回答なし)



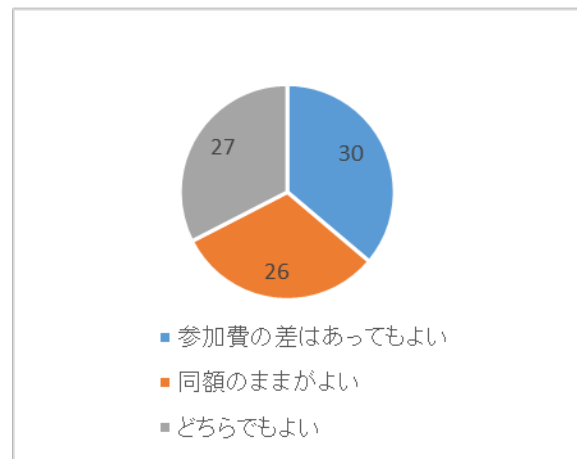
設問7. 質問時間を特別に設ける方がよい
 でしょうか？(予め設けるべきの選択
 肢では、長め、短めについても聞いた)
 4名回答なし. 1名が今のやり方でよい.



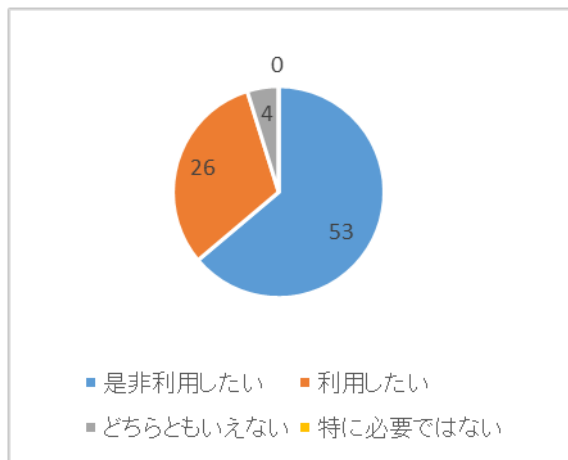
設問8. 研修会の参加費についてはいかが
 でしょうか？(1名が複数回答:判
 断つかないため)



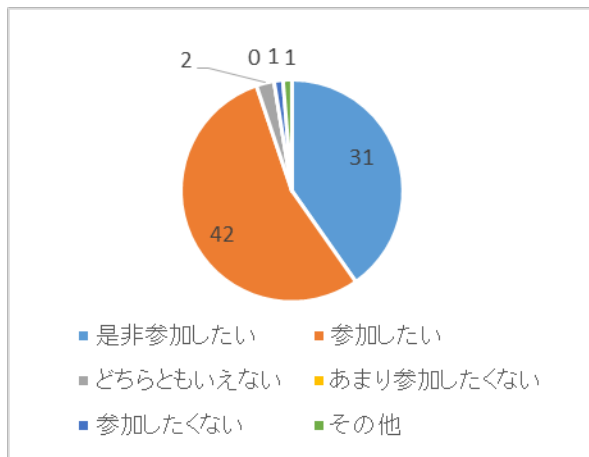
設問9. 土木学会の会員・非会員に関係
 のない同額の会費設定について



設問10. 講師の方の講義スライドをコ
 ピーする機会があれば利用し
 ますか？



設問12. 今後の講習会にも参加したいと
 思いますか？(6名回答なし)



設問11. 今後、取り上げて欲しいテーマ(Aコース)

1. 下水道管理も含めた、本当の総合雨水対策
2. 水工学における今後期待される又は求められる新技術について
3. Common MPの取組を紹介してほしい
4. 越流決壊, 流域管理
5. 昨日(8/25)の講義中に話題に上がった, 地下水の面的把握の最新技術
6. 浸水とリモートセンシング高度化技術, 浸水Risk・Damageの評価←調査手法
7. 今後の河川管理のあり方について. ICTを活用した河川管理の現状と課題について
8. 混相流の数値解析
9. 洪水予測の精度向上に関する技術
10. 浸水想定関連(効率的な計算手法など)
11. 総合土砂管理
12. 土砂災害について
13. 総合的な土砂管理. 流出解析手法(精度向上)
14. 土石流, 洪水予測の高度化(特に中小河川)
15. 中小河川を対象とした研究
16. ダムの構造に関することや操作ルールに関すること. フィールドツアーを3日目に実施するなど(川の見方の講義)
17. 堤防(破堤), 洪水調節施設, 河床変動, 河川構造物の水理的課題と解析
18. 新しい土砂の解析方法・方程式, 自然再生の成功例・評価
19. 水害等リスクマネジメント
20. 河道内の津波遡上
21. 原子力発電の活用. 東日本大震災では地震による被害はなく, 津波対策をすれば良いことは明らかであるが, 一部政治家, マスコミの誤った認識から脱却出来ていないと思う. 原子力規制委員会は理学的見解が強いと考えるが, それを克服してインフラを構築する工学的(土木)の見解が明らかにされて良いと思う. 又, 以下のことも考えられる:
 - 1.地球温暖化による異常気象の拡大阻止のための化石燃料利用を減
 - 2.化石燃料高騰による発展途上国の化石燃料利用を阻害. 日本の経済成長の鈍化
 - 3.化石燃料に変わる本格的な安定的電源が確保できるまで, 世界各国のため, 安全な原子力発電を開発
22. 治水計画の思想・哲学. たとえば, 水系一貫の1/100年としているが, 水系の全てを1/100年で整備して良いのか? 重要な地域と, 便益としては, マイナスとなる地区についての整備レベルを変えても良いのではないかと, 等の問題.
23. 土砂災害について

(参考資料 Bコース):

1. 岸沖漂砂, CADMAS-SURF
2. 港湾の長周期波対策
3. 津波、波浪、漂砂の数値解析
4. 数値解析
5. 津波高潮の防災設計に関するもの、ハード対策
6. 大規模災害に対する海岸構造物の対策案・設計など
7. 土木分野において問題となる非線形性とその取扱い(波浪・地盤etc)
8. 密度成層流、栄養塩、鉛直混合、湧昇マウンド礁
9. 砕波帯の力学、最新の研究のレビューを含めて

設問13. ご意見・ご感想・ご質問(Aコース)

1. 特になし
2. 今の時期の研修会が良いので続けて欲しい
3. 今年初めて参加しました。来年も参加したいと思いました。
4. 事前に質問の受け付けができれば良い
5. スライドに書き込みしながら、講義を聞きたい。当該研修会は、学術的な講演が主であるが、実務的な講演も増やして欲しいし、1:1くらいでもいいと思う。研修会の資料は前もって入手したい。ある程度資料を見ていないと内容を理解しづらいため。
6. 1日目の開始時間がもう少しおそいと、全国どこからでも当日入りが可能なので助かります。
7. 冷房が効きすぎです。
8. 今回は、講義に使用したPPをコピーさせて頂いたが、今後も実施して欲しい。
9. 清水康行先生の講演と福岡捷二先生の講演は異なる意味で”目からウロコ”でした。大変勉強になりました。
10. 1980年代から、時々この研修会に参加しております。学生の頃～建設コンサルの技術者であった頃は、今ほど情報基盤も整っておらず、大学の最先端の技術を学べる貴重な機会でした。現在、様々なシンポジウムが開催され、最新情報もNetで容易に入手できるようになりました。本研修会の参加者も少なくなるにつれて、当初の本研修会の役割(目的)は十分に果たしたのではないかと感じるようになりまして。そこで思い切って、本研修会の対象を一般(したがって土日開催)としてはどうでしょうか。気候変動に伴い、災害の様相も変わってきました。「これまでに経験したことのないような...」の増加は、防災担当者にとっても対応に想像力が必要なように、住民も受け身的な意識では、益々防災対応が難しくなって来ると思います。住民の防災力向上のため、防災に関する知識や知見を学ぶ機会として、本研修会を利用したらと思います。住民にとっても、遠く離れた地域の災害事例を知ることや、研究者が何を考え、どんな思いで技術開発等を行っているのかを直接話しかけることは大切なことのように思います。(乱筆乱文にて失礼しました)
11. 直近の土砂災害の話や、今後多く使用される技術を紹介していただき、今後の業務に使用できるものがあれば活用したいと思った。
12. 2日間にわたり、研修会を開催頂き、ありがとうございました。質疑にもきちんとお答えいただいたので大変勉強になりました。
13. 大変勉強になる内容が多く、遠くから参加した価値がありました。ありがとうございました。
14. 充実したプログラムで参加して良かったと考えています。福岡先生が言われたように、水工学(河川工学)は、これからも進化していくと思いますので、こう言う研修会があれば参加させていただきたいです。
15. 研修会のテキストをHPIにアップしてもらいたい(過去のものも含め)
16. 皆様、大変ご多忙の中、貴重な説明をいただきありがとうございました。自らの不勉強さを感じることができました。
17. 内容的に盛りだくさんで逆に話が駆け足にならざるを得ないところがあったが、じっくりお話を伺いたい部分もあったので、その辺がちょっと残念だった。しかし、全体的には勉強になる部分が多く、有意義だったと思います。
18. 良い講習会でした。

(参考資料 Bコース):

1. 一部難しい内容の講義があり、説明も難しい内容のものがいくつかあった。
2. 学生や一般企業からの参加もあるので、発表者の工夫が必要かと思いました。
3. 90分は長い、60分がよい。
4. 観測データの活用、解析のアプローチなど色々参考になった。
5. 二日目の終了時刻をもう少し早められると良い
6. テキストにない図面の説明があるので、パワーポイントのファイルをPDF等で公開していただければ幸いです。

流量観測技術高度化小委員会報告

資料2

第3回 流量観測の高度化に関する勉強会の実施報告

日時:8月6日(水)9:00~17:00

出席者 約70名

場所:新潟大学 有王記念会館

1. 開会の挨拶 藤田一郎(神戸大学)
2. 流量観測の今後の課題 萬矢敦啓(土研ICHARM)
3. 洪水観測用機器の検定方法に関して(ADCP の場合) 橘田隆史(ハイドロシステム開発)
4. 画像の幾何補正を伴う河川流画像計測における誤差について 藤田一郎(神戸大学)
5. 出水中の粗度係数の変動について 本永良樹(土研ICHARM)
6. 数値水理解析における格子構成の重要性 安田浩保(新潟大学)
7. 高水時に超音波式水位計と電波流速計で観測された『水位』『流速』データ ~姫川 山本観測所 H25 年
台風18号~ 中島洋一(横河電子機器)
8. KU-STIV を使った流速観測の仕組み 佐藤浩司(ビーシステム)
9. コンパクトデジタルカメラの動画を利用した画像解析の適用性 甲斐達也(福田水文センター)
10. ドップラーレーダーによる河岸からの流速分布観測(魚野川)報告 若杉佳功(東建エンジニアリング)
11. 閉会の挨拶 中尾忠彦(河川情報センター)

活発な討議が行われ、盛会のうちに終了しました。(報告 神戸大 藤田)

2014 (H26) /9/1		初稿締切
		(データストレージにて入稿・編集管理)
		・主査から査読依頼(各編内で相互査読), 結果を第3回小委員会で報告
2014 (H26) /11/6	第3回編集小委員会 会議	第1稿の査読内容の確認, 他編との整合性, 全体構成等の確認
2014 (H26) /11中旬		第1稿の修正依頼(原稿量調整, 全体構成のかかわるよ うなおおきなもの)
2015 (H27) /2		第2稿の提出(図, 式などを含め最終版の形式で提出)
2015 (H27) /3	第4回編集小委員会 会議	第2稿の確認, 修正依頼
2015 (H27) /5		第3稿締切
2015 (H27) /9		土木学会に完成原稿提出(締切期限9/30)

水害対策小委員会 活動報告

2014年度の活動

- 2014年7月： 災害調査時の保険適用開始
水害発生時の水工学委員会対応マニュアルの完成
- 2014年8月： 四国水害調査団結成・活動のサポート
水害調査法統一化WGによる調査の実施
兵庫・京都・岐阜水害・土砂災害調査団結成・活動のサポート
広島土砂災害調査団結成・活動のサポート
- 2014年9月： 四国水害調査団(徳島)調査報告会
四国水害調査団(高知)調査報告会
2014年豪雨による水害・土砂災害緊急調査報告会
～災害メカニズムの解明と災害ゼロを目指して～の実施
参加者数:449人+講演者・司会者等(10人)



2014年豪雨による水害・土砂災害緊急調査報告会の様子

2014年度の活動

2014年9月： 土木学会全国大会研究討論会 「豪雨災害に挑む！～近年の国内での水害の特徴と対策～」の実施
参加者数：120人+講演者・司会者等（7人）



土木学会全国大会研究討論会の様子

2014年10月： 広島土砂災害調査団調査報告書作成、報告会実施サポート
2015年3月： 2014年度第二回小委員会開催
河川災害シンポジウムの実施

その他

- ・ 総務省・消防との情報交換，連携確認
- ・ スィフトレスキューマニュアルの検討

土木学会水工学委員会 水害対応ガイドライン

平成26年6月30日制定

1. 調査の種類

- ・水工学委員会が実施する調査は、土木学会社会支援部門の支援の下で土木学会災害調査団として実施する災害緊急対応業務と水工学委員会が独自に調査団を結成して調査を行う土木学会水工学委員会水害調査団がある。本規程は、水工学委員会が独自に調査団を結成して調査を行う土木学会水工学委員会水害調査団に対するものであり、土木学会災害調査団として実施する災害緊急対応業務は、「土木学会災害緊急対応業務規程」に従うものとする。
- ・土木学会水工学委員会水害調査団の調査の種類は、先遣調査、本格調査の二種類とする。
- ・先遣調査とは、水害発生後に速やかに実施される調査であり、調査団員は推薦団員のみで構成される。
- ・本格調査とは、水害発生後に被災地の状況などが落ち着いた後に実施される調査であり、調査団員は推薦団員と状況に応じて公募団員から構成される。本格調査の前に先遣調査が実施され、本格調査が不要と判断された場合は、先遣調査のみで調査を終了する。

2. 調査団の結成方法

2.1 調査団結成の判断

- ・水害が発生した場合、水工学委員会委員長・幹事長、水害対策小委員会委員長の話し合いにより、調査団を組織するかどうかの判断をする。
- ・調査団の結成は、「社会的関心の高い大規模な災害かどうか」、「災害の規模とは関係なく、有益な知見が得られる可能性があるかどうか」、「被災地の状況（調査の安全性、調査受け入れ先の状況など）」、「調査費の準備状況」等を考慮して決定される。
- ・調査団の結成が決定されると、国内の水害の場合は、水工学委員会委員長は、水害対策小委員会を通して被災地区が含まれる土木学会支部の幹事（水害対策小委員会委員）に調査団結成を依頼する。海外の水害の場合、水工学委員会委員長は調査団団長となるか団長を指名する。

2.2 国内での水害

- ・被災地区が含まれる土木学会支部の調査団組織責任者と幹事が中心となって調査団を組織する。
- ・被災地区が含まれる土木学会支部の調査団組織責任者、もしくは調査団組織責任者が指名した者が調査団長を務める。
- ・被災地区が含まれる土木学会支部の幹事が調査団幹事を務める。
- ・被災地区が含まれる土木学会支部の幹事が調査団長として指名された場合は、被災地区が含まれる土木学会支部の幹事は調査団の団長と幹事を兼務する。もしくは、調査団幹事を別途指名する。
- ・被災地区が複数の土木学会支部に含まれる場合、水工学委員会委員長が調査団の団長及び幹事を指名する。

2.3 海外での水害

- ・水工学委員会委員長，もしくは水工学委員会委員長が指名した者が調査団長を務める。
- ・水工学委員会委員長は，水害の種類（専門性），被災地での活動経験・知識などを考慮して調査団幹事を指名する。
- ・調査団長及び調査団幹事が中心となって調査団を組織する。
- ・調査地は，外務省HPの被災地の渡航情報において，「退避を勧告します。渡航は延期して下さい。」，「渡航の延期をお勧めします。」，「渡航の是非を検討して下さい。」の指定のない地域及び指定のある地域を空路以外の方法で移動しなくても到達できる地域とする。
- ・海外での災害調査では，先遣調査を実施せずに本格調査を実施する場合がある。

3. 調査団団員

- ・先遣調査の場合，調査団員は団長による推薦団員のみで実施する。
- ・本格調査の場合，調査団員は団長による推薦団員及び必要に応じて公募団員で構成する。
- ・調査団員の数は，おおむね10名以下を目安とする。ただし，調査受け入れ機関が対応可能であるとともに，各自で調査費を支出するなど調査費の確保に問題が無い場合などは，調査団員が10名以上となってもよい。
- ・調査団員には，必ず39歳以下の土木学会会員を1名以上加える。
- ・被災地区が含まれる土木学会支部以外の地域からも調査団員の選出は可能である。
- ・調査団結成後，調査団幹事は調査団団員の名前と所属を水害対策小委員会を通して水工学委員会委員長・幹事長，水害対策小委員会委員長に連絡し，調査団団員の承認依頼を行う。また，調査団派遣届を土木学会調査研究部門担当職員に提出する。
- ・調査団員は基本的に土木学会会員で構成する。土木学会会員以外の研究者を団員に含める場合は特別団員とする。
- ・学生が調査に参加する場合は，指導教員の責任の下で参加することとし，団員ではなく調査協力者とする。

4. 調査費

- ・調査費は，（1）河川財団，防災研究フォーラム，文部科学省突発災害調査費（科研費）等の外部資金，（2）水害対策小委員会の予算，（3）団員の研究費から支出する。
- ・（1）外部資金による調査費の申請は，調査団幹事が取りまとめて行う。
- ・（1）外部資金の申請は，事前に水工学委員会執行部と相談した上で行う。
- ・先遣調査は，手続きが可能な場合は（1）または（2）を利用し，手続きが間に合わない場合は（3）を利用する。
- ・本格調査は，（1）を基本とし，（1）の調査費を確保ができない場合や手続きが間に合わない場合は，（2）や（3）を利用する。

5. 他の組織との合同調査

- ・調査団長が他の組織との合同調査を必要と判断した場合，調査団幹事は合同調査の調整を行う。
- ・他の組織から合同調査の依頼があった場合，合同調査を実施するかどうかの判断は，調査団長

及び水工学委員会委員長との話し合いにより行う。

6. 調査団受け入れ先との調整

- ・調査を効率的に進めるため、河川管理者や被災地自治体に被災地の案内などを依頼する場合、調査団幹事が受け入れ先との調整を行う。
- ・調査団受け入れ先が不明な場合、国土交通省 水管理・国土保全局 治水課の水害対策小委員会委員に調査団受け入れ先の紹介を依頼する。

7. 活動報告

- ・調査団幹事は、調査団員決定後、速やかに調査団結成や調査団員の名前・所属を水工学委員会のメーリングリスト、水害対策小委員会Facebookページ等で報告する。
- ・調査団幹事は、調査実施後速やかに調査時の写真などを水害対策小委員会Facebookページ等で報告する。
- ・調査団長は、調査実施後2週間以内にA4サイズで1～2ページ程度の調査報告書（速報版）を作成し、調査団幹事及び土木学会水工学委員会担当職員を通して土木学会社会支援部門のHPに報告書を掲載し、水工学委員会のメーリングリスト、水害対策小委員会HPなどで報告書作成を報告する。
- ・調査団長は、調査実施年度の次の年度の5月末までに調査報告書（最終版）を作成し、調査団幹事及び土木学会水工学委員会担当職員を通して土木学会社会支援部門のHPに報告書を掲載し、水工学委員会のメーリングリスト、水害対策小委員会HP等で報告する。また、必要に応じて、調査年度の1月末までにA4サイズで6～20ページ程度の調査報告書（河川災害に関するシンポジウム用）を作成する。
- ・河川災害に関するシンポジウムでの調査報告の依頼があった場合は、調査団長もしくは調査団長が指名する調査団員が河川災害シンポジウムで調査報告を行う。

8. 保険

- ・調査団員の安全確保は、団員各自で行う。
- ・調査時に発生した事故や傷病などは、水工学委員会が包括契約している保険の適用範囲内で水工学委員会が対応する。保険適用外の事故は傷病などの責任は自己責任として、土木学会はその責任を負わない。
- ・水工学委員会の団員として調査を実施する全ての旅行、また水害対策小委員会の活動の一環としての調査を実施する全ての旅行は、水工学委員会が包括契約している保険が適用される。保険適用者は、調査団幹事もしくは水害対策小委員会幹事長に以下の内容を連絡する。
 - ・調査者の名前と生年月日
 - ・調査予定地（調査終了後に修正可能）
 - ・調査日程（調査後に修正可能）

以上の情報は、原則、調査実施前に報告する。調査前に報告ができなかった場合は、調査後速やかに報告する。なお、保険適用実績の報告は毎月10日であるため、遅くとも毎月9日までには、

水害対策小委員会幹事長に保険適用実績の情報が集まるようにする。

附録

連絡先

水工学委員会委員長，道奥康治（Kohji MICHIOKU），法政大学デザイン工学部都市環境デザイン
工学科，〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-33，電話：03-5228-1449，E-mail：

kohji.michioku.47@hosei.ac.jp

水工学委員会幹事長，立川康人（Yasuto TACHIKAWA），京都大学大学院工学研究科社会基盤工
学専攻，〒615-8540 京都市西京区京都大学桂 C1，電話：075-383-3362，FAX: 075-383-3360，

E-mail：tachikawa@hywr.kuciv.kyoto-u.ac.jp

水害対策小委員会委員長，堀智晴（Tomoharu HORI），京都大学防災研究所水資源環境研究センタ
ー，〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄，電話：0774-38-4250，FAX: 0774-38-4250，E-mail：

hori.tomoharu.3w@kyoto-u.ac.jp

水害対策小委員会幹事長，竹林洋史（Hiroshi TAKEBAYASHI），京都大学防災研究所流域災害研
究センター，〒612-8235京都市伏見区横大路下三栖東ノ口，電話：075-621-2144，FAX:

075-621-2144，E-mail：takebayashi@sabom.dpri.kyoto-u.ac.jp

土木学会事務局 160-0004東京都新宿区四谷1丁目外濠公園内

<調査研究部門担当職員>，沖いずみ，電話：03-3355-3559，E-mail：oki@jsce.or.jp

<調査研究部門水工学委員会職員>，岩西伸介，電話：03-3355-3559，E-mail：iwanishi@jsce.or.jp

土木学会北海道支部，〒060-0061 札幌市中央区南1条西2丁目 南1条Kビル8階，電話：

011-251-7038，FAX：011-251-7038

土木学会東北支部，〒980-0802 仙台市青葉区二日町17-21北四ビル2階，TEL：022-222-8509，

FAX：022-222-8509

土木学会関東支部，〒160-0017 東京都新宿区左門町6-17Y S Kビル5階，TEL：03-3358-6620，

FAX：03-3358-6623

土木学会中部支部，〒460-0008 名古屋市中区栄 2-9-26ポーラ名古屋ビル8階，TEL:052-222-3705，

FAX：052-222-3773

土木学会関西支部，〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1船場センタービル4号館409号，

TEL：06-6271-6686，FAX：06-6271-6485

土木学会中国支部，〒730-0011 広島市中区基町10-3自治会館内，TEL：082-222-2376，FAX：

082-222-2496

土木学会四国支部，〒760-0066 高松市福岡町3-11-22建設クリエイトビル4階，TEL:0878-51-3315，

FAX：0878-51-3313

土木学会西部支部，〒810-0041 福岡市中央区大名 2-4-12シーティーアイ福岡ビル2階TEL：

092-717-6031，FAX：092-717-6032

その他の関連組織

地盤工学委員会委員長，三村衛（Mamoru MIMURA），京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻，〒615-8540 京都市西京区京都大学桂 C1，電話：075-383-3304，FAX: 075-383-3307，E-mail：mimura.mamoru.3r@kyoto-u.ac.jp

地盤工学委員会幹事長，豊田浩史（Hirofumi TOYOTA），長岡技術科学大学工学部環境・建設系，〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1，電話：0258-47-9619，FAX：0258-47-9600，E-mail：toyota@vos.nagaokaut.ac.jp

砂防学会研究開発部会部会長，藤田正治（Masaharu FUJITA），京都大学防災研究所流域災害研究センター，〒612-8235京都市伏見区横大路下三栖東ノ口，電話：075-611-5263，FAX: 075-611-5239，E-mail：fujita@bj8.so-net.ne.jp

流域管理と地域計画の連携方策に関するワークショップ

1. 開催主旨

流域管理と地域計画の連携方策に関する取組みやその課題等を土木学会会員と行政で共有するとともに、これら課題等を背景として、実施する河川砂防技術研究開発公募の流域計画・流域管理課題分野に対しての理解を深める。

2. 開催日時、場所等

日時：平成26年11月25日（火）午後2時から5時

場所：土木学会講堂（東京）

主催：流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会

共催：水工学委員会、土木計画学委員会

3. プログラム（案）

（1）全体概要、WS開催経緯

（2）連携方策に向けたとりくみ例（行政のニーズ、大学のシーズ）

（3）全体討議

2014.10.07
水工学委員会幹事会
早稲田大学 関根

土木学会論文集編集調整会議 からの報告

論文集編集委員会 委員構成

● 通常号 B1/B2/B3合同編集委員会 (2014)

石平 博 (山梨大), 里深好文 (立命館大), 重枝未玲 (九州工大), 杉原祐司 (九州大), 横尾善之 (幹事, 福島大) [B1]

水谷法美 (委員長, 名古屋大), 原田英治 (幹事長, 京都大), 高木泰士 (東京工大), 陸田秀実 (広島大)

● 英文論文集B1/B2/B3合同編集委員会 (2014)

関根正人 (委員長, 早稲田大), 竹林洋史 (幹事長, 京都大), 石平博 (兼務, 山梨大), 浅沼 順 (筑波大), 川池健司 (京都大), 宮本仁志 (芝浦工大), 矢野真一郎 (九州大), 横山勝英 (首都大学東京)

[以上, 敬称略]

土木学会論文集編集調整会議

- 編集調整会議 (2014)

戸田祐嗣 (副幹事長, 名古屋大), 関根正人 (委員)

[敬称略]

掲載状況報告

- 通常号B1(水工学)論文集に掲載された論文数
 - 2013年：12編 / 平均13.5ページ
 - 2014年：7編 (~6月)
- 英文論文集 Vol. 1に掲載された論文数
 - 2013年：7編 (既発表論文の翻訳3編), [4編返却]
 - 2014年：1編 (~6月)

J-Stageの変革に伴う 土木学会論文集原稿への変更 (1)

J-Stageの変革に伴い今後考慮すべき点も含めたポイントは以下の通りです。

- 論文原稿は、これまで通りPDFファイルとして投稿・掲載されることとなりますが、これまでのBIBファイルに代わってBIB-XMLファイルの提出が求められます。
- 通常号を対象にしてMS-WORDによる組版ソフトならびにTEXによる組版ソフトの開発が完了しつつあります。これを使えばPDFファイルとともにBIB-XMLファイルが作成できます。もし原稿のフォーマットを通常号にそろえるならば、特集号でもそのまま活用することができます。

J-Stageの変革に伴う 土木学会論文集原稿への変更 (2)

- 書誌情報BIB-XMLファイルのみを作成するためのソフトウェアを開発中です。具体的には、海岸工学委員会が先行して、海岸工学論文集の原稿に合わせたソフトウェアを作成しており、水工学論文集でもこれを活用することが可能となります。
- 検討事項：水工学論文集の原稿フォーマットを通常号のものにそろえるのも一案。ただし、和文と英文アブストラクトの両方を6ページの中に収めると、実質的な内容の記述が圧縮を受けることとなります。1ページ増やすことも含めてこの機会に検討することが必要です。

J-Stageの変革に伴う 土木学会論文集原稿への変更 (3)

- 参考：通常号では、PDFファイルのみ投稿すれば、学会側でBIB-XMLファイルを作成する有料サービスを行うことを検討中.

以上

基礎水理シンポジウム 2014 (案)

基礎水理部会長
大本 照憲

土木学会水工学委員会の下に組織されております「基礎水理部会」では、その活動の一環として、2007年度より標記のシンポジウムを開催しています。このシンポジウムは、基礎水理に関わる数多くのテーマを選び、これに関わる講演と中身の濃い議論とを通じて該当するテーマの本質的な理解を深めるとともに、未だ残されている研究テーマや問題点について再確認することを目指しています。また、若手研究者や大学院生の参加を歓迎し、水理学研究の意義と面白さ、現状の理解と今後の展望などを伝えていくことも目的のひとつとしています。

今回は昨年に引き続き「移動床水理学が生態系保全に果たす役割」をテーマとして、**流域生態系における生物多様性保全の技術手法に関する最新的话题**を大阪府立大学名誉教授の谷田一三先生より、河道内樹林の**管理に関する話題**を国土交通省国土技術政策総合研究所の服部 敦河川研究室長よりご講演頂きます。また移動床水理学、生態水理学、生態系保全などの分野においてご活躍されておられます**埼玉大学教授の田中規夫先生**、徳島大学准教授の**河口洋一先生**、中央大学准教授の**内田龍彦先生**、京都大学准教授の**山上路生先生**に最新的话题についてご講演頂きます。このシンポジウムの運営については基礎水理部会で行いますが、部会のメンバー以外の多くの方々の参加を期待しています。お誘い合わせの上、会場にお集まり下さいますようお願い申し上げます。

・日時

2014年12月1日(月) 9:30 ~ 16:30(予定)

・場所

土木学会講堂 (東京都新宿区四谷一丁目無番地)

・プログラム

下記の通り

・参加費

無料 (当日直接会場へお越し下さい)

- 09:30 ～ 09:35 開会の挨拶： 大本照憲 基礎水理部会長（熊本大学）
- 09:35 ～ 09:50 趣旨説明： 田中規夫（埼玉大学）
「生息場や避難場の短期的・長期的時間変化をもたらす「攪乱」
の共通認識に向けての境界層水理学や土砂水理学の必要性」
- 09:50 ～ 10:50 基調講演： 谷田一三（大阪府立大学）
「」
- 10:50 ～ 11:00 休憩
- 11:00 ～ 11:45 話題提供： 河口洋一（徳島大学）
「」
- 11:45 ～ 12:00 討議
- 12:00 ～ 13:00 昼休み
- 13:00 ～ 14:00 基調講演： 服部 敦（国土交通省国土技術政策総合研究所）
「河道内樹林：これまでの取り組みと今後」
- 14:00 ～ 14:10 休憩
- 14:10 ～ 14:55 話題提供： 内田龍彦（中央大学）
「摩擦速度は粗度層の流れを表しているか？－粗度層を含む河床
近傍の流れの非平衡性を考慮した解析に基づく検討」
- 14:55 ～ 15:40 話題提供： 山上路生（京都大学）
「粗面境界層の乱流構造と輸送現象について－実験水理学の立場
から－」
- 15:40 ～ 15:55 討議
- 15:55 ～ 16:25 総合討議（視点：ただし、下記に限らず自由討議）
・ 境界層の乱流構造と応用生態工学
・ 水生昆虫の生息場の時空間的変動と土砂水理学
・ 魚の生息場の時空間的変動と土砂水理学
・ 河川環境と総合土砂管理
- 16:25 ～ 16:30 閉会の挨拶： 大本部会長（もしくは、生態水理 WG 長・田中）

2014 年度 iRIC 活動報告・今後の予定

活動報告

- 5月1日 EGU で iRIC による解析結果の紹介, スイス・ETH やフランス・Telemac と今後の活動について情報交換 (清水・竹林)
- 6月16日 iRIC 研究会
- 7月3日 名古屋大学で iRIC の集中講義 (清水)
- 7月11日 水文水資源学会の iRIC 講習会 (清水, 柿沼, 井上など)
- 7月16日 札幌エルプラザで iRIC の最新情報のプレゼン(木村, RIC 研究助成報告会)
- 7月23,24日 インド工科大学デリー校で iRIC の集中講義 (清水, Nelson)
- 7月31日,8月1日 室蘭工業大学で iRIC の集中講義 (木村, 久加, 鈴木)
- 8月4日 帯広市の河川技術研究会で iRIC 関連の勉強会に参加 (清水)
- 8月26日 水工学委員会夏期講習会で iRIC の紹介 (清水)
- 9月10日 土木学会全国大会研究討論集会「豪雨災害に挑む! -近年の国内での水害の特徴と対策」で iRIC 関連の話題提供 (清水)
- 9月12日 土木学会全国大会研究討論集会「水理・水文解析のための汎用プラットフォームによる協力連携と人材育成」で iRIC 関連の話題提供 (清水)
- 9月22日~24日 ベトナムハノイ市水資源大学で開催された IAHR-APD で iRIC のブース展示を行い, アジア各国の参加者に iRIC を宣伝. IAHR の Executive Director から次回の APD では Congress に前後して iRIC の講習会を実施してはどうかと提案を受けた. また, iRIC の宣伝を IAHR の Website で行ってはどうかとの提案を受け, 現在対応中.



今後の予定

- 10月13日~17日 JICA 主催による iRIC 講習会 in ジャカルタ (清水, Nelson, 平井, 久加)
- 11月12日~14日 iRIC 講習会 in 九州 (大本, 杉原, 清水, 木村, 竹林, 旭, 久加, 寒地土研から2名)
- 11月18日~19日 iRIC 講習会 in 北京 (清水, 木村, 竹林)
- 12月4日 iRIC 研究会
- 12月10日~11日 iRIC 講習会 in スリランカ (清水, Nelson, 竹林)

熊本大学・大本部会長，九州大学・杉原先生のご尽力により，iRIC 講習会を九州大学で実施することになりました。

◆河川流・河床変動解析ソフト：iRIC 講習会 in 九州◆

日時：2014年11月12日（水）～11月14日（金）

場所：九州大学 筑紫キャンパス総合研究棟（C-CUBE）2階 E-ラーニングラボラトリールーム

主催：iRIC 研究会

共催：（公社）土木学会水工学委員会 基礎水理部会

内容：研究及び業務で河川の解析をよりスムーズに実施頂けるようになることを目的として、チュートリアルに従って iRIC をパソコン上で操作し，実際に解析を 行いながら iRIC の各ソルバーの仕様方法を習得する 3 日間の集中講習会です。

定員：30名（定員になり次第，応募を締め切ります。）

参加費：18,000円（但し講習会資料が pdf でも良いという方は 15,000円）。講習会当日に受付でお支払いとなります。

2014年11月12日

9:30 開会の挨拶（熊本大学・大本照憲 基礎水理部会部会長）

9:35 iRIC の紹介（北海道大学・清水康行）

10:05 iRIC ソフトウェアの利用の流れ（株式会社 RiverLink 旭一岳）

10:30 データインプット、データアウトプットの紹介（株式会社 RiverLink 旭一岳）

12:00 昼食

13:30 Nays2DH（北海道大学・久加朋子）

16:00 他の解析モデルの紹介

17:00 終了

2014年11月13日

9:00 Nays2DFlood（寒地土研）

11:30 昼食

13:00 FaSTMECH（講師未定，M-flow に変更の可能性あり）

17:00 終了

2014年11月14日

9:00 土石流・泥流モデル（京都大学・竹林洋史）

11:30 昼食

13:00 NaysCube（北海道大学・木村一郎）

15:30 閉会の挨拶（北海道大学・清水康行）

15:35 終了

樹林化ワークショップ2014 in 鬼怒川(案)

資料9

環境水理部会 樹林化WG主査 宮本

- WS2014目標: 河川巡検を通して樹林化カルテを具体化.
 - 日時: 2014年12月5日(金), 6(土)の一泊二日
 - 鬼怒川(JR宇都宮駅集合, 現地は主に礫河原再生事業箇所)
 - 参加予定: 参加希望者 + 河川部会・環境水理部会WGメンバー
(10月中旬以降 皆さまにメーリングリストにてご案内!)
 - ご講演: 池田宏先生(河川地形学), 下館河川事務所
- スケジュール概略 (詳細検討中)
- 初日: 鬼怒川の現地視察, ご講演
夕食・懇親会・自己紹介 (ice break)
WSの目標設定
- 二日目: ワークショップ, カルテ具体化に向けての要点整理
カルテの作成(グループ作業), 発表・批評
総評 + 反省, 課題の整理